

FOA-NEWS

通算第41号

2018/3/25



インスタント リプレー (IR) を実施して

田口 眞行

2017年12月18日(月)東京ドームで開催された富士通対IBMのJAPAN X BOWLにおいて日本で初めてインスタントリプレー(IR)が導入され、年を越して1月3日(水)のRICE BOWLにおいてフィールドの判定を覆すリバースの判定がなされました。インスタントリプレーの導入にあたっては遡ること1年前のJXBにおいて試行(非公開)をするなど準備に時間をかけて万全の態勢で実施しましたが、関係者の関心も高くIRを導入する試合の重要性も増すことが予想されるため、多くの振り返りが必要ですが、まずは多くの審判員にどのように実施されたかを報告し、情報を共有していきたいと思えます。

インスタントリプレーが実施されるのはリプレーオフィシャルが試合に重要で直接的な影響があると判断した場合とヘッドコーチのチャレンジがあった場合です。フィールドの審判が要求することはできません。

インスタントリプレーのフィロソフィーとしてはフィールドの判定は正しいというのが前提で、判定が明らかに誤りであることを示すに議論の余地がない、ビデオの証拠(エビデンス)がない限り判定を変更することはできないとなっています。

レビューが可能なプレーは①得点に関わるプレー②パスの成功不成功等③デッドボールカールスボール④キックへのタッチ⑤ターゲティングの判定

⑥フィールドのプレーヤーの数、レビューした際のクロックの修正、ダウン数の修正⑦その他不正なフォワードパスなどの反則をコールすることができます。(詳細はルールブック第12篇参照)



駐車場のトラック

今回の実施においては、海外クリニック派遣経験者やBillのアメリカでの実施状況からのアドバイスで次のように配置しました。駐車場のトラックの中でビデオを見て実際の判定をするリプレーオフィシャル(2名)・コミュニケーター(1名)、一塁側ダッグアウト付近にてクルーと会話をするアシスタントコ

コミュニケーター（2名）、スタジアムの上部に配置し試合全体を観察しているアシスタント（1名）の計6名です。それぞれがインカムをつけて会話をしましたが、これがすばらしく感度の良いもので駐車場とグラウンドの会話が、あたかも隣同士で話しているようでした。今回の2試合で担当したのはリプレー オフィシャルが田中理事、田口。コミュニケーターが七久保理事。アシスタント コミュニケーターを大野部長、馬島監事、東技術部員。アシスタントが藪内技術部員です。



巻き戻しや早送りを操作する機材、11台の画像が一斉に操作できる。

事前に協会や機材と技術を提供してもらう東通との打ち合わせを綿密におこない、クルーのミーティングにも参加させてもらって、当日のリプレーの流れを共有し本番を迎えました。当日は4時間前には東京ドーム入りし、協会や業者との打ち合わせ、機材の確認やテストを繰り返しました。

レビューの手順としてはNHKが撮影した11台のカメラの映像を確認しながら、リプレーが必要だとと思われる場面があった場合“ホット”と叫んでアシスタント コミュニケーターからフィールドの審判に伝えプレーを止めてもらう、そして、どのカメラの映像が判定に役立つかを瞬時に判断し、その映像を大画面に映し出し、映像を自由に巻き戻せる機器を操作しながら判定を確認していく。映像でフィールドの判定が正しいことが確信できた場合は“確認する（コンファーム）”となり、判定が映像ではっきり確認できない場合は“支持する（スタンド）”となり判定を支持することになる。映像でフィールドの判定が明らかに間違えであったことが確認されれば“変更する（リバース）”となり判定を覆す。

ブースの中では毎プレー、コミュニケーターが時間やダウンを記録し、リプレー オフィシャルが両チームの人数を確認しました。そしてプレーを観ながらレ

ビューが必要かどうかを声をだして確認していきました。ダウンが終了してから次のスナップまでの間にレビューが必要かどうかを11台のカメラの画像を判断してフィールドの審判にプレーを止めてもらわなければならないので、結構毎プレー緊張と慌たしいなかで試合が進行しました。

今後の課題や議論になると思いますが、1Qの3分18秒のIBMのラン プレーでのタッチダウンがゴールラインを越えたかどうかのプレーをレビューすべきかどうかという点です。あの場面は止めるべきであったと多くの方から指摘を受けました。試合開始直後で不慣れな中、画像の中でボールが写っている画面を探している間に次のプレーが始まってしまいました。後で考えればまずプレーを止めてから映像を確認すれば良かったのですが、みんながテンパっていました。ゴール ラインを横から撮影しているカメラが無かったのも今後の課題ですが、しかし良い経験をしました。それ以降は落ち着いてレビューが必要か判断してから必要な映像を探そうとできるようになりました。

ライスボウルではリバース（判定を覆す）も経験することができました。2Q10分17秒の富士通のパスによるタッチダウンの判定。ライン際のパスキャッチでしたので、すぐに“ホット”と指示しプレーを止めることができ、映像の選択から判定と手順を踏んでスムーズに進み、映像から明らかにレシーバーの足がラインを踏んでいることを確認しました。アシスタント コミュニケーターのところにRが来たら、Rと直接話すのはブースにいるコミュニケーターとリプレー オフィシャルです。ビデオの判定結果と次のプレーのボールの位置やハッシュ、計時開始のタイミング等の確認をRに伝え、Rが指定の用紙に記入します。Rはレビューの結果をクルーに伝え、アナウンスをしました。Rのアナウンスは観客にも分かりやすかったと思います。事前の準備の結果がでたと思いました。



アシスタント コミュニケーター

今後の課題としては得点差や残り時間等を考慮しながら止めるべきか流す方が良いのかの判断を共通認識として確立することやブースからの伝達内容を整理してクルーとの事前のシミュレーションをしていくことが必要であると思います。今後 I R 導入の試合が急に増える状況にはないと思われませんが、リーグ

編成の変更が予定されている X リーグ等では関西との連携なども必要になってくると思います。

最後に、今回の I R 実施に際して社会人協会の田中康様の大きなお力添え、ならびに機材の準備・操作を(株)東通の皆さまによって無事実施できたことに感謝申し上げます。

今回レビューした事例

- ・ 1. JXB : 富士通QBのファンブル/パス失敗でファンブルをコンファーム (ターンオーバー)
- ・ 2. JXB : IBMのパス キャッチをスタンド (お手玉していた)
- ・ 3. RB : 富士通QBのフォワード パス失敗をバックワード パス失敗にリバース (4ヤードロスになった)
- ・ 4. RB : 富士通のパス成功 (TD) を失敗にリバース (TD取り消して第4ダウンになった)
- ・ 5. RB : 日大QBのパス失敗/ファンブルでファンブルをコンファーム (ターンオーバーでない)

TASO Football 2017 Annual Meeting に参加して

野坂 賢臣

2017年7月28日(金)～29日(土)にかけて、Texas州Houstonで開催されたTASOクリニックに阿部仁さんと参加してきました。関西からは藤田和宏さん、大藤強さんが参加されました。なお、今回は残念ながらご都合があわずRodgers Redding氏、Dotson Lewis氏お二方とも不参加でした。

私は7、8年振りとうつと海外ということで、不安半分て7/27(木)の夕方、成田を出発しました。しかも当日は北朝鮮がミサイルを発射するかも、というニュースが流れていたため、試合さながらの緊張感でした。阿部仁さんは1日早く7/26に日本を発ち、Houston入りの前にAtlantaで一泊しBilly Beckettさんのお宅へお邪魔してからHouston入りでしたので、現地27日午後、Houston空港で合流しました。AtlantaにはCollege Football Hall of Fameがあるとのことで、仁さんはBillyさんで行ってきたそうです。

今回の宿泊場所はTASO割引のあるMarriott Marquis Houstonというダウンタウンの中心地にあるホテルで、会場であるGeorge R. Brown Convention Centerは道路を挟んだ隣にあります。非常に綺麗なホテルでしたが、街の中心地でビジネス街なのか10分程歩かないと付近にコンビニ的なお店が無かったのが唯一の難点でした…。



ホテルの部屋から見たクリニック会場。左側の赤い煙突の様なのが立っているのが今回のクリニック会場 George R. Brown Convention Center。



路面電車のSuper Bowlラッピング。2月のSuper Bowl開催地がHoustonのNRGスタジアムでした。

当日、仁さんと野坂が受講したセッションは以下のとおりです。

1 限 (8:30-9:20)

・ Passing Game (受講者：仁さん、野坂)
 (内容) Passing Game に関するフィロソフィーや DPI/OPI、TGT に関する概要についての講義でした。



BBQ レストランでの風景。右側、仁さんと話しているのが TASO Houston 支部理事の Al Gruwell 氏 (FJ)



1 限目授業風景。噂には聞いていましたが、極寒の室内です (ただし参加者皆、気にする様子もなく普通に半袖です)

到着翌日の 28 日 (金) は午前中に TASO クリニックの登録を済ませ、クリニック会場でオープンしていた審判グッズのショップを数軒回った後は夕方まで自由時間です。午後はせっかくの Houston ということで、随一の観光地である宇宙センターを駆け足で観光し、夕方にはまたダウンタウンへ。夜は BBQ レストランで TASO 参加者の歓迎ディナーが行われましたので、関西からのお二人とはそこで合流しました。

29 日 (土) のクリニックは 1 コマ 50 分のクリニックを同時に別々の 6 会場で行われます。28 日の登録時に時間割が配布されましたので、仁さんと手分けして様々なカテゴリーのクリニックを受講することになりました。

2 限 (9:30-10:20)

・ Rare Penalty Enforcement (受講者：仁さん)
 (内容) トライ中の反則や超過節に発生する反則の罰則施行というレアケースに関する競技規則のおさらいとその事例紹介。複雑な罰則施行は、最後にボールを所有していたチームの意図が優先されること、反則をしていないチームの意図 (確保変更前に B がクリーンハンドである場合を含む) を把握し、反則をしていないチームに有利な選択は何かを考え、そこから逆算して罰則施行を考えるのが良いと、分かりやすいアドバイスをくれたと仁さんが報告してくれました。

・ Kicking Game (受講者：野坂)
 (内容) FK や Punt 時の競技規則のおさらいが中心。KOB の際は選択肢が 3 つある事や Punt リターナーがマフした場合のルールの確認を行っており、どちらかというルーキー向けの内容といった印象。



クリニック開始前の光景。Texas 州内様々な地域の審判が集まります。



2 限目 Kicking Game 授業風景。満席でこのセッションのみ野坂は立見でした。

3 限 (10:30-11:20)

・ Philosophies and Intent (受講者: 仁さん)

(内容) TASO Football 審判員は新人からベテランまで幅広い層に対しクリニックを実施しますが、この講義は基本中の基本である原則であるルールの意図・背景についての講義でした。

・ Rare Game Situations (受講者: 野坂)

(内容) 試合中のレアケースの反則発生のセッションかと思いきや、テーマは『雷』、『乱闘』、『不用意なホイッスル』についての講義でした。Texas では夏季に雷の発生が多いことから発生時の体勢のレクチャー、また、『乱闘』では実際の映像を交えながら対応方法や支部への報告方法の紹介を行っていました。『不用意なホイッスル』は TASO でもテーマになっていましたので洋の東西問わず問題視されていることを実感しました。

写真には収められませんが、乱闘映像には、コーチからの抗議を受けた審判サポートクルー (TA?) がキレて突然コーチに殴りかかるという衝撃映像も流されました…。

4~5 限 (12:30-13:20、13:30-14:20)

・ Coach/Official Communications (受講者: 仁さん、野坂)

(内容) Houston 地域で活動している High School ヘッドコーチによるパネリスト講演。選手に問題があれば審判からコーチに注意し、コーチから選手をコントロールするのが良いというのがパネリストの共通した意見でした。

また TASO では両チームのコーチが同意すれば、コーチが審判クルーを「リクエスト」する制度があり、そのため審判がコーチの気を惹こうとして不必要なメールをすることがあるようです。このようなことは絶対するな、と TASO Football 審判部長から注意喚起がありました。(野坂は半分ほどしか英語が理解できず仁さんに訳していただきました…)

6 限 (14:40-16:20)

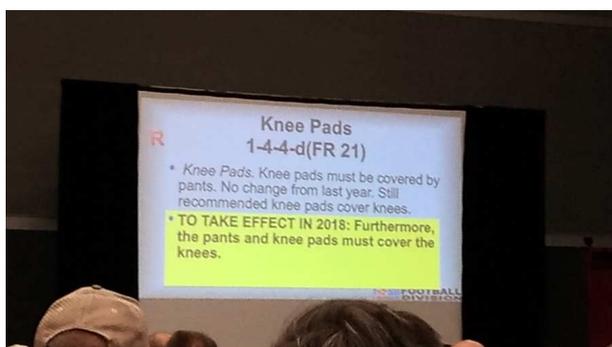
・ 全体会、業務連絡、ルール変更 (受講者: 仁さん、野坂)

(内容) 冒頭、TASO 事務局長の Michael Fitch から TASO Division 理事の紹介。その後、Texas でのフットボールの試合中に頸椎を負傷し車椅子生活を余儀なくされた選手と父親による講演がありました。負傷により家族の生活が一変した経験を経て、現在は同じように負傷し苦しんでいる高校生のために、基金を設立し支援活動を行っているとのこと。TASO もこの基金に協力をしているそうです。講演の後、功労者表彰、事務連絡、2017 年度競技規則変更のセッションがあり今年度の TASO Annual Meeting は閉会しました。

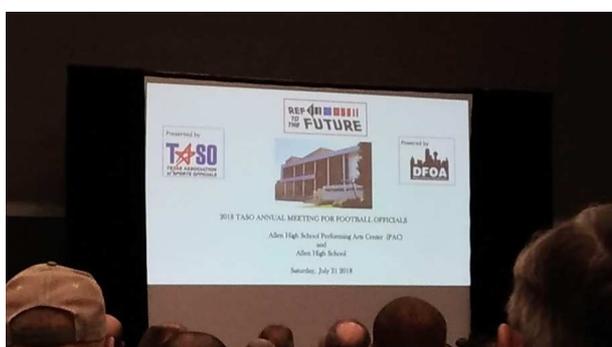
なお、来年は 2018/7/20 (金) ~7/21 (土) Texas 州 Allen という町で開催の予定です。



全体会風景。1200~1300 人ほどいたそうです。アメリカの一州の高校生の審判だけでこれだけいることに驚きました。(写真に写っているのは会場全体の半分程です)



こちらでもヒザの件はトピックスとなっていました。不用意なホイッスルといい、問題は日米問わず同様、ということなのでしょう…。



来年 Allen で開催される TASO Meeting の紹介。Allen はダラスの北 40km ほどの所にある小さな町。

クリニック終了後は、関西からの藤田さん、大藤さんと一緒に 4 人で、車で地元のスティーキハウスへ行き Texas らしい料理を楽しみました。ですが、帰り際ホテルまで数 10 メートルという所で、パトカーの目の前でドライバーの 0 さんが車道を逆走してしまい、現地の黒人ポリスに止められるという一幕がありました。(サイレン音はアメリカの事件モノの映画でよく耳にするあの音でした) あわやという状況でしたが、4 人全員アジアから来た英語がよくわからない旅行者を装った表情をしたのが効いたのか、運よく大らかな黒人ポリスは注意だけで済ませてくれました。

